

## 【技術名】低成分等低コスト肥料

# 特定の成分を増減した肥料を用いることにより、 肥料代と施肥労力の低減が図られます！

### 【技術の要約】

土壌診断等に基づき、特定の成分含有率を増減した肥料を用いることにより、肥料代と施肥労力の低減が図られます。また、土壌改良資材等を配合した肥料を用いることによつて、施肥労力の低減が更に図られます。

### 【技術の内容】

- 1 今まで、土づくり目的もあり、りん酸、カリ等を多く含む**山型肥料**を施用してきました。この結果、近年、地域によっては特定の土壌養分が過剰なほ場がみられます。
- 2 **土壌診断**を実施して土壌の現状を把握し、その診断結果に基づき、必要に応じて**小さい山型肥料、谷型肥料、L型肥料**等の肥料を変更することで、**養分過剰の解消**のほか**肥料代の削減**にも有効です。
- 3 長野県では、三要素肥料等を配合したBB肥料(粒状配合肥料)がよく使われています。この三要素肥料に加え、**土壌改良資材等も配合した肥料**を用いることで、1回の作業で施肥・土づくり作業が終了し、**肥料散布の省力化**につながります。
- 4 長野県JAグループでは、地域の実状に即した配合内容のBB肥料を供給しているほか、各農家からのリクエストに応えた配合内容の肥料も供給しています。これらを用いることにより、省力・低コスト化に加え、それぞれの地域・農家のこだわりの肥培管理ができます。

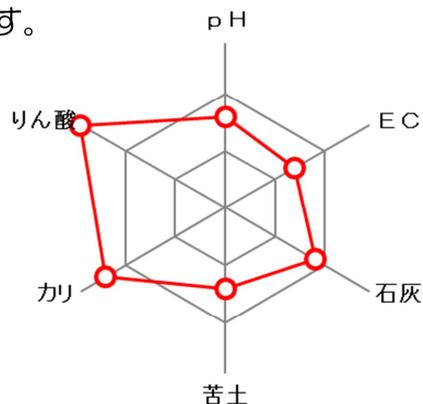


図1 土壌診断結果のレーダーチャートの例  
(外側:上限基準値、内側:下限基準値)

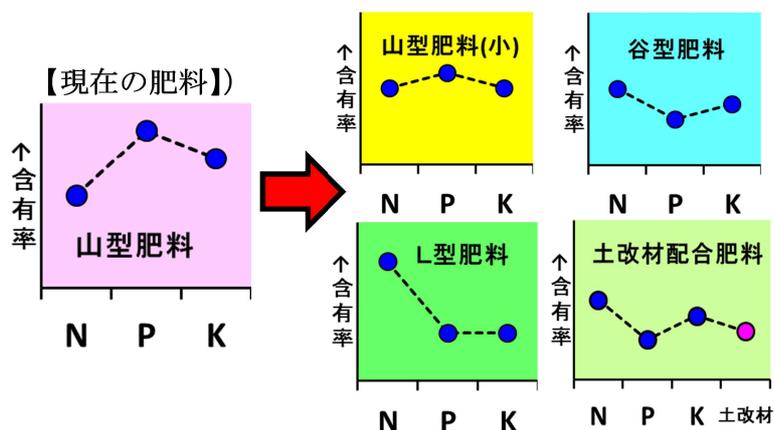


図2 養分過剰圃場における今後の肥料選択

### 【留意事項】

- 1 ここに示した内容は、窒素以外のりん酸やカリが過剰な場合を示しています。土壌窒素は、微生物によって徐々に無機化されて供給される可給養分であり、これも簡易的に測定が可能です。可給態の窒素が過剰で倒伏が頻発するほ場では、使用する肥料の成分バランスのみではなく、施肥量も見直す必要があります。